

【各年度の年次目標と実施計画】

平成 28 年度

1. 目標

- **研究 I（認知症疑い者の早期発見研究）**を中心に活動する。研究 I をすみやかに遂行するために、各自治体と測定地域の絞り込みを行い、自宅生活を営む佐賀県民の心身機能の測定を行う。これまでの実績として年間約 250 名（25 名×10 ヶ所）の測定が可能であるため、これを初年度の目標（5 年の研究期間中の早い段階で 2,000 人の到達を目指す）とする。また、認知症疑い者については約 50 名（約 250 名の 20%）の早期発見を行い、各自治体の認知症初期集中支援につなげる。

2. 実施計画

本事業では研究 I において、どの程度認知症疑い者をピックアップできるかが、その後の介入研究の遂行に大きな影響を与える。そのため、現在の健常高齢者中心の介護予防事業の測定フィールドから公民館のサロン活動や生きがいデイサービス事業（要介護認定において「自立」と判定される高齢者で、おおむね 65 歳以上の一人暮らし高齢者等で、家庭に閉じこもりがちな者が対象）施設に調査フィールドを拡大する。これにより早期発見率が 20%に向上すると予測する。

次に、早期発見者の早期対応については、これまで測定後のフォローとして測定結果のみをフィールドバックし、具体的な対応については各自治体に委ねていた。本事業では、認知症疑い者への早期対応が研究 II につながることや、認知症初期集中支援事業が平成 30 年から本格始動することを念頭に置き、自治体とともに対象者のフォローを行う。

具体的には、本学に所属している精神科医師、認定作業療法士（認知症専門）、看護師、社会福祉士からなる認知症初期集中支援チームを独自に編制し、①自宅訪問調査、②自宅生活支援（認知症予防）プランの策定、③家族支援等を行い、自治体等と協業して認知症初期集中支援モデルを構築する。